

アジア諸文字の

クワイブライク

展

【主催】東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

既形成拠点 GICCAS



【会期】

平成27年10月26日(月)～11月27日(金)

土日祝休場 ※10月31日、11月1日、

11月19日～23日(外語祭期間)は開場

【時間】10時～17時

【会場】

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化

研究所1階資料展示室

【入場料】無料

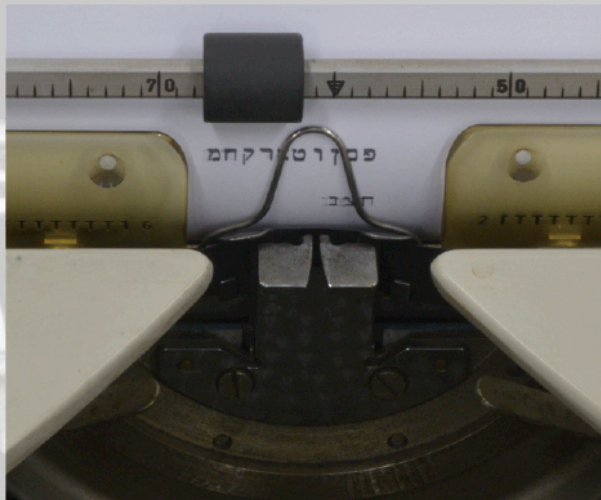
緻密
アジア

めまいがするほど、
文字が溢れ出す、



デーヴァナーガリー文字タイプライター

デーヴァナーガリー文字・ヒンディー語を入力するため、1970年代後半、東京経営機株式会社製の和文タイプライターを改造して製作された2台のうち、唯一現存するもの。1980年代には東大ヒンディー語科の教科書作りに実際に使用された。
※チラシ表は本タイプライター文字盤の拡大写真



ヘブライ文字タイプライター拡大

今回展示するヘブライ文字やアラビア文字のタイプライターは、文字の書写方向通り右から左に文字列を入力できる。ヘブライ文字タイプライターをテストタイプしたところ、現在も問題なく動作することがわかった。

ごあいさつ

正しく、早く、広く、そして永く「文字を伝える」ために、さまざまな試みが続いています。印刷、活字、電子写植、ワープロソフトと形を変えて、文字は「書く」だけでなく「入力する」ものにもなっています。文字を簡便に入力して文書を作成する機械として「タイプライター」が誕生したのは、19世紀末とされています。

いわゆる「欧文タイプライター」に続いて、日本を含むアジアの諸文字を入力するためのタイプライターも作られました。ワープロ専用機とパソコン・プリンターの普及により、それらは短い活躍時期を終えました。しかし、欧文タイプライターのキー配列が現在のキーボード配列に繋がるように、アジア諸文字のタイプライターも、文字入力システムなどの開発に影響を与えています。

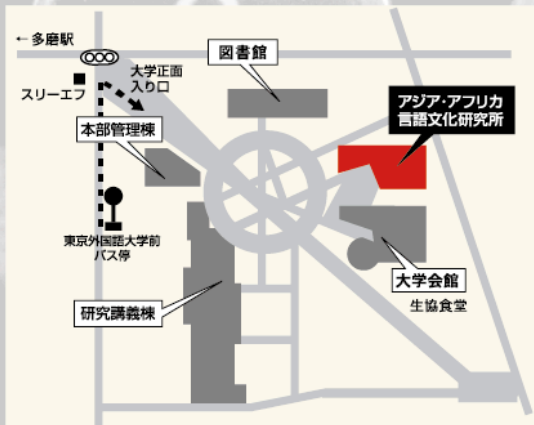
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所既形成拠点 GICAS (アジア書字コーパス拠点) は、アジアの貴重な文献・書籍の収集に努めるだけでなく、文字に関わる資料も収集・整備してきました。本企画展「アジア諸文字のタイプライター」では、GICAS が所蔵する、インド系をはじめとしたアジアの各種文字を入力するためのタイプライターを紹介します。さまざまな言語・文字に溢れたアジア世界の一端を知っていただければ幸いです。

アジア・アフリカ言語文化研究所 所長 飯塚 正人
既形成拠点 GICAS 代表 荒川 慎太郎



ビルマ文字タイプライター

ビルマ文字・ビルマ語を入力するオリンピア社製のタイプライター。インド系のビルマ文字には基本文字の他に結合文字があり、字種が多いため、シフト切り替えによって処理している。



[会場] 東京都府中市朝日町 3-11-1
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
1階資料展示室

[入場料] 無料
[問い合わせ先] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
TEL : 042-330-5600 FAX : 042-330-5610

[展覧会サイト] <http://www.aa.tufs.ac.jp/asiatypewriter2015/>